

サポート

No. 195

令和5年10月4日発行

県教育庁特別支援教育課指導チーム

特文連創立20周年記念講演会



秋田県特別支援学校文化連盟は、これまでたくさんの方々に御理解と御支援をいただき、今年度で創立21年目を迎えました。

8月18日に秋田公立美術大学の安藤郁子教授を講師に「アート～子どもの声を受け取るまなざし～」という演題で創立20周年記念講演会を開催しました。

障害者の生涯学習支援に造詣が深い安藤教授からは、代表を務められている「アートリンクうちのあかり」でのエピソードを交えながら、子どもの創作活動への向き合い方について分かりやすく教えていただきました。子どもの思いに寄り添い、見取ることについて、「ジャッジしない」「みとる」というキーワードを用いて講演いただき、日々の指導の在り方を振り返る機会となりました。



50名程度の先生方、保護者の方などが参加しました。



ペアを組み、粘土を使ったワークショップを行いました。

また、粘土を使ったワークショップでは、「怒り」などの思いを形にする活動を行いました。その過程をペアになった相手が黙って見取り、感じたことを伝え合うという体験を通して、参加者は、初めての経験に戸惑いながらも、新たな気づきがありました。

また、「作品そのものだけでなく完成に至るまでのプロセスを大切に授業づくりをしていきたい」「作品に込められた思いをくみ取るヒントをいただけた」など、学びがあり充実した講演への多数の感想が寄せられました。

(聴覚支援学校 特文連事務局長 伊藤 直美)

第21回秋田県特別支援学校文化祭



- 「第21回わくわく美術展」 令和5年12月1日(金)～4日(月)
会場：秋田市にぎわい交流館A U
- 「令和5年度みんなの写真展Ⅰ」 令和5年11月15日(水)、16日(木)
会場：秋田拠点センターALVE
- 「令和5年度みんなの写真展Ⅱ」 令和5年12月1日(金)～4日(月)
会場：秋田市にぎわい交流館A U
- 「第2回わくわく Show time」 令和5年12月13日(水) オンラインによる限定配信

事業紹介

高校生学校生活サポート事業 高校教育課

平成23年度から24年度にかけて特別支援教育課所管で実施した「県立高等学校学校生活サポートモデル事業」の後継事業として、平成25年度から所管を高校教育課に移して今年度で11年目を迎えます。

発達障害等のある生徒がより豊かな高校生活を送ることができるよう、学習サポーターを配置して学習や生活の支援を行うとともに、高等学校特別支援チームと連携し、教育専門監及び関係機関の指導助言を受けながら、校内外の研修や就学支援等の充実を図っています。

学習サポーターは今年度、中高一貫教育校2校を含む6校に1名ずつ配置され、数学、英語等の座学の他、体育の実技や家庭の実習等、様々な場面でサポートを行っています。生徒に寄り添うきめ細かなサポートは、生徒が自信をもち、安心して学校生活を送ることにつながっています。また、配置校における校内支援体制の充実にも、本事業が確実に結び付いています。

今年度は、年2回の担当者連絡協議会を通級指導教室担当者と合同で行うことにしています。また、特別支援教育課に御協力をいただき、高等学校の特別支援教育コーディネーター連絡協議会を初めて実施しました。これらの協議会において、本事業における取組の成果と課題を配置校以外の高等学校とも共有することで、高等学校全体の特別支援教育の充実につなげていきたいと考えています。

(高校教育課 指導主事 高橋 大)



ICT 活用実践紹介

書字に困難のある生徒の学習支援アプリの活用 県立横手支援学校

本校は、昨年度「e-AKITA ICT 学び推進プラン事業」ICT 活用推進モデル校の指定を受け、ICT を活用した様々な実践を行ってきました。今回は、高等部の職業科の時間に取り組んだ「書字に困難のある生徒の学習支援アプリの活用」について紹介します。

授業のねらいは、「実習で友達のよいところを見付けたり、友達に自分のよいところを見付けてもらったりして、実習の成果を自信にすること」です。アプリは『ロイロノート・スクール』を使用しました。実習の様子を動画で見て、友達のよいところをロイロノート・スクール上のカードに書いたり、例文を教師側でいくつか挙げておいて、当てはまる例文のカードを選択したりできるようにしました。付箋紙を用いて授業をしていたときは、書くのに時間が足りないことが多かったのですが、カードに直接入力したり、例文を引用したりすることで、書字に掛かる時間が大幅に短縮され、考える時間を十分とれるようになりました。また、iPad の予測変換機能を使ったことで、漢字で入力することに自信をもちたり、印刷されたカードを見て、よいところをプレゼントされたといううれしさを感じたりする生徒が多く見られました。



全員の考えを一つの画面に集約して共有



ロイロノート・スクール上のカードに記入

今後もロイロノート・スクールを活用して、生徒自身が考えを深めていけるような実践を広げていきたいと思っています。

(横手支援学校 教諭 佐藤 豪)

インクルーシブの風

このコーナーでは、インクルーシブ教育システムの推進の観点から、各校種等における特別支援教育に関する取組や交流及び共同学習の様子などを紹介していきます。

あきた県庁出前講座

障害者スポーツ「ボッチャ」の体験

県立秋田きらり支援学校

7月26日の昼下がり、秋田市立桜小学校の体育館に4年生から6年生までの14人の児童が集まり、ボッチャ体験会がスタートしました。14人の瞳はまっすぐで、基本的な投球の仕方も、得点の数を数える方法を中心としたルールもすぐに覚えました。ゲーム中は、チームのみんなで球の配置を読み取り、作戦を考えます。「〇〇、ここをねらって投げて、この球をはじくのはどう？」そんな会話がどのチームからも聞こえてきました。みんな以前からの知り合いに思えるほどで、ボッチャを通して友情も育まれ



作戦タイムの様子



ランプを使用した疑似体験

ているようであ

れしくなりました。ランプ（球を転がすためのスロープ）を用いて、体が不自由な方の疑似体験も行いました。あちらこちらから「難しいな。選手たちはすごいな。」という声が聞こえました。自ら障害のある方たちに心を寄せ、尊敬する姿に、とても感激しました。みんな、立派な共生社会の担い手です。頼もしい担い手たちを心強く感じました。近い将来、きっと障害のある方たちともボッチャを楽しんでくれることでしょう。

（秋田きらり支援学校 教諭 山中 征子）



「令和5年度秋田県学校関係緑化コンクール」受賞校

○学校林等活動の部

「知事賞」

県立能代支援学校（全日本学校関係緑化コンクール出場）

○学校環境緑化の部

「知事賞」

県立比内支援学校

「東北森林管理局長賞」

県立大曲支援学校

「県緑化推進委員会会長賞」

県立支援学校天王みどり学園

「秋田県森と水の協会会長賞」

県立比内支援学校かつの校

県立比内支援学校たかのす校

「県花いっぱい運動の会会長賞」

県立ゆり支援学校

